

情勢報告（平成29年3月分）

中央西農業振興センター高吾農業改良普及所

お茶の栽培や飲み方をもっと知って ―若き茶農家が農業高校で土佐茶講座を実施―



茶栽培を報告する茶農家と熱心に聞く学生

2月24日、南国市の県立高知農業高校で、本年度3回目の出前授業を行い、仁淀川町の茶農家品原さん（28才）が、食品ビジネス科2年生35名に、自身の茶の栽培や地域の現状について授業を行いました。授業では、茶の栽培や製造の楽しさ・苦労、生産者の高齢化や減少の状況、今後若い世代に働きかけ、組合員を増やしていく取り組みを話しました。そして「茶を栽培している園にもっと足を運んでください。若い人が来てくれたら、茶を作っている人の励みにもなります」と要望しました。その後、品原さんの作ったお茶を急須を使って入れ、味や香りを楽しみました。

普及所では、内容の打合せや資材・資料の準備など、計画段階から支援を行っています。今後も、より美味しいお茶を飲めることを若年層に知ってもらい、お茶ファンを増やす努力を続けていきます。

仁淀川流域から新たな茶の発信のために ―半発酵茶プロジェクトチーム会を開催―



試作品の半発酵茶を試飲する参加者

2月21日、茶業試験場で仁淀川流域の茶生産者やJA、県から19名が参加し、半発酵茶プロジェクトチーム会を開催しました。これは、流域の茶の生産拡大のため、緑茶以外の生産にも取り組む活動の一つです。

当日は、茶業試験場、お山の茶明郷園、岡林製茶から「やぶきた」や「べにふうき」「はつもみじ」などの品種を使った試作品11点と市販品3点を比較試飲しました。参加者は、試作品に対して「色がきれい」「少し火香が強い」などの感想を出し合い、品質向上のための意見交換が行われました。

普及所では、このプロジェクトチーム会を通じ、生産者への茶業試験場の試験研究成果や製造技術の提供を行うなど、生産・販売を支援していきます。

夢甘栗®の安定生産のために ―仁淀川流域夢甘栗生産者組合がせん定講習会開催―



せん定する普及員とそれを観る生産者たち

3月2日、佐川町尾川地区で、仁淀川流域夢甘栗生産者組合がせん定講習会を開催し、組合員等28名が参加しました。当日は普及所職員が講師となり、成木園での太い枝や結果母枝のせん定方法など、説明と実際のせん定を行いました。組合員からは「何年もせん定していない樹はどう切るのか」「隣とつみ合っている樹はどう切るのか」などの質問があり、枯れ枝の除去や日当たりを重視してせん定することなど、ポイントとなる情報を提供しました。

近年、夢甘栗®は、その良食味特性から固定客が多く、加えて缶詰会社等から注文の要望が増えています。要望量を確保し生産者の所得向上へつなげるため、普及所では同組合と連携して、夢甘栗®の安定生産ための支援を継続していきます。

高品質なさかき・しきみの生産を目指して ― J A コスモス仁淀花木部会で目慣らし会を開催―



持ち寄ったさかき、しきみの荷姿や品質を確認

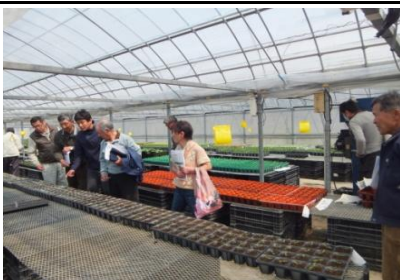
3月23日、仁淀川町観光センターで、J A コスモス仁淀花木部会の総会にあわせ、さかきとしきみの目慣らし会が行われ、約50名の生産者が参加しました。

当日は、束の形やボリューム、病虫害被害葉の取り除きなど、品質を高めるための注意点を皆で確認しました。また、病虫害防除については、森林技術センターや林業事務所から説明があり、活発な質疑がおこなわれました。

さかきやしきみは安定した需要があることから、普及所では、今後も関係機関と協力して、高品質なさかきやしきみの産地を維持するため支援していきます。

村の駅ひだかの青果物出荷促進を目指して

―さんさん市出荷部会が春まき野菜研修会を開催―



研究農場長の話を聞いている様子

3月22日、村の駅ひだかさんさん市出荷部会を対象に、春播き野菜の栽培について、育苗を中心に高知市春野町の(株)高知前川種苗研究農場において研修会を実施しました。当日は部会員8名と関係機関含めて12名が参加し、参加者からは「種のまき方と時期、セル苗のトレイからの取り出し方など、知らないことだらけでとても勉強になった」などの意見がありました。

普及所では、年2回の栽培講習会に加えて、不定期での勉強会も実施しており、今回も事前に前川種苗との打ち合わせにより効果的な研修が実施できました。これからも講習会等の開催など、出荷部会の活動を支援していきます。